

コラム 39 :【親子間の距離に関して】

お互いに尊重している家族なのに「どうしてか話が通じない」「お互いに相手の言っていることが信じられない」と、口論が起こってしまうことがあります。

ケンカ別れで一人暮らしをしている子どもが、実家に帰ってきて、「おいしい味噌を持ってきた。熟成させると良いから家に置いておいて」と一言だけ伝えて、また戻っていきました。

お母さんは知り合いの方にその味噌をおすそ分けしてしまいました。

再び実家に帰った子どもは「何で味噌が減ってるの？」とお母さんに聞きました。お母さんが「邪魔だったからおすそ分けした」と伝えたと、子どもは激怒。子どもは、お母さんと仲直りするために味噌を持ってきていましたが、再びケンカ別れになってしまいました。

相談にきたお母さんは「おいしい味噌があったから持ってきたよ」と言ってくればよかったのに、と言っていました。お母さんがおすそ分けしたいと思った時点で「この味噌おいしそうだから、知人におすそ分けしてもいいかしら？」と一言、子どもに尋ねるべきだったかもしれません。

そして子どもも、「おいしい味噌たくさん買ってきたから家に置かせてもらえる？」と尋ねたらよかったかもしれません。

「家族なんだから、そんな細かいこと言わなくてもいいじゃない！水くさい！」と考えるのは親子間の距離が近すぎると言えます。

子どもが20才を過ぎたら『他人行儀』ぐらいの感じでお付き合いすることも必要になります。親子間でも『相手の意思を確認する』適度な距離感が大事になってきます。